

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を施設内に表示したり、部署会で毎回共有したりしている。一人ひとりに寄り添いながら出来る限り自立を支援したい。理念は部署会資料や施設内に掲示しているが、理解については不十分と思われる。	部署会の資料等に記載されたり、施設内に掲示されています。職員の入れ替わりがありました。理念について話し合いはされていません。	理念の具現化に向けて管理者や職員全体で話し合い、日々のサービスの提供を振り返りながら、理念がケアに反映されているか意識的に取り組まれることを望みます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	不要になった介護用品や布、野菜などの寄付はあるものの、施設側からの発信はほぼない。保育所とは定期的に交流会を開催している。	保育園の園児たちから、運動会や遠足に行ってきたお話を聞かせてもらうなどの交流を行っています。又、ご近所からの野菜や果物のお裾分けを頂いたり、施設の周辺を散歩して挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で実践できていないと感じる。地域との交流の場が無い。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で書面開催が多くなっているので、意見書を同封し、ご意見を募っている。何か要望があれば取り入れ活かしている。	書面における開催と委員の参加による運営推進会議を行っています。ヒヤリハットについての検討やスピーチロック等の研修の話題等を報告しています。出された意見等は職員に伝え、ケアにどのように活かしていくか話し合われています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進会議へ出席し、ケアマネ中心に取り組んでいる。待機者の情報は得られている。設置町とは連絡を取っているが、町外担当者とは中々連絡を取る機会がない。	町の担当者とは様々な機会を通じて、関わりを持ちながら、事業所の入居者の状況や区分変更時の連携等を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会や部署会内で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議開催月に委員会を開催し、毎月の部署会にて委員会からの発信がある。年2回、身体拘束に関する研修を行うよう取り組んでいる。	事業所固有のリスクを把握し、部署会において日々のケアを振り返り、ヒヤリハット事例の検討やスピーチロックの研修会を行うなど、気づきを持つための研修会等を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	皮膚の状態の観察もあり、異変に気付ける体制がある。全職員が注意を払っているが、特に研修はしていない。社協として委員会設置予定。職員の皮膚観察、異常発見等、意識は高いと思われる。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業による金銭預かりを活用している。社協として、成年後見制度活用しているが、学ぶ機会にはほぼない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族と連絡を密にし、不安が無いように努めている。入所時説明義務を果たしている。改定等の際は事前に周知する様努め、連絡表などに書類を同封している。又、入所者の状態変化に伴う介護用品、福祉用具などの契約に関して、電話ですぐにお知らせし、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月の連絡表の送付やLINEにてその都度対応できている。広報まめだかなへ情報掲載している。意見、要望等気軽に頂けるよう一部ご家族とはLINEにて連絡を頂けるようにしている。	広報誌まめだかなに事業所の情報を発信するなど、意見等気軽に伝えてもらえるように努めています。利用者、家族等からは、出来ることをさせてほしいなどの意見が出され、部署会にて話し合い、反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	局長、課長に直接言える関係性となっている。職員と意見や提案をしている。部署会への出席もある。それ以外でも直接話せる体制を取っている。	毎月の部署会において、意見等が出されます。昼食を作る体制や利用者の入浴時間の取り方など、利用者の一番傍にいる職員と共に話し合いながら、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ベースアップなども取り組まれ仕組み作りもされている。各々が向上心を持って働けるような職場環境に務めている。給与規則改定があり、給与面での改善がされた。就業規則は、部署会資料として毎月の勤務表を提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修も進んで行うことが出来、学ぶ機会も確保できるが、個人の努力になってしまっている。研修について連絡はあるが、勤務の都合上参加できない事が多々ある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ前は研修にて他施設職員との交流機会があり、情報交換が出来た。今は、コロナの為出来ていない。他施設よりコロナ感染の報告書を頂き、情報を得ることは出来ている。法人単位での情報交換はあるが、職員個々での交流はプライベートなものになっていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の困っていること、不安なことに耳を傾けながら、ケアマネがアセスメントしている。事前情報や面談時の本人・ご家族からの聞き取りを元に、生活歴や趣味、嗜好など職員へ周知し、入所後も日常会話、生活の様子などから信頼関係を得られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なこと要望等に耳を傾けながら関係を作り、ケアマネがアセスメントしている。事前情報、面談時の本人・ご家族からの聞き取りを元に、家族と本人の関係性、要望など各家庭ごとに信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネがアセスメントしている。必要に応じて、病院受診時など同法人の移送サービスや、外部医療機関などと連携するなど、サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯たたみや箱ちぎり、食器拭きなど出来る事や希望を踏まえて一緒に取り組んでいる。事務的な関係にならないよう「苗字様」ではなく、お互いに親しみを持てる様各々工夫して呼ばせて頂いている。又、同郷としての親しみを持てるように方言なども積極的に使用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の役割も大切に、面会など、なるべく関わられるよう配慮している。誕生日会など行事の時は家族に電話している。病院受診時、付き添いをしてもらったり、送り迎えをしてもらい協力を頂いている。近隣のご家族には生活に必要な衣類、日用品等の購入もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの為、実際に人に会ったり、場所に行くことは難しいが会話の中で話題にすることもある。出身地など日常的な会話にて話題に出すが、馴染みの人など職員が把握していない場合が多い。	地域に暮らす馴染みの知人等との交流は、コロナ感染防止のため積極的には出来ませんが、昔馴染みの商店街の話題や草刈りの話、町の広報誌を読みながら馴染みの場所等の会話を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士や職員に対してなど、会話をしたりレクリエーションで交流したりと関わり合いができるようにしている。入所者同士、プライベートは確保しつつ、近い距離間で生活して頂いている。レクリエーションや食事、お茶の時間に各々交流している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お亡くなりになった時連絡を頂き、線香をお供えたケースがあった。以前は葬儀への参列もあったが現在施設側から連絡を取ることにはほぼ無い。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一日の中で本人に意向を聞きながら、状況に応じて、部屋で休んで頂くなどの対応をしている。生活歴や趣味、嗜好などを本人に伺って、その人らしく生活できるよう支援している。	コミュニケーションの取りにくい利用者には、どんな時に嬉しい表情をするのか、何があったら不機嫌になったのか等の表情をくみ取り、これを記録にして職員間で話し合い、共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族への聞き取り、日常会話の話題の中で、生活環境やサービス利用の経過等を把握し、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化や違和感に注意し、申し送り、ケース記録にて共有している。又、一日の様子を俯瞰できる様式を使用し、その都度書き込めるようにして、利用者様がしやすいようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の職員間のコミュニケーションや部署会の中で、ケアのあり方を話し合い確認している。ご本人様に合う現状に即した介護計画を作成している。日々の申し送りや、部署会などで検討も行っている。	担当制になっており、気づきや要望等を聴きながら部署会で話し合い、一人ひとりの暮らしを大切にしたい介護計画となっています。日々のモニタリングを重視し、職員全員で現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録と日誌、ノートを活用し、勤務帯で様子、気づきを共有している。部署会にて経過に対する検討をし、見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援やサービス多機能化に取り組んでいる。新しい意見など積極的に取り入れたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	図書館車の利用、保育所交流、散髪など地域資源の活用有り。安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期往診を行っている。受診時には家族の付き添いあり。状態変化時の往診や相談、訪問もあり、利用者様に合わせた受診も行っている。大きな変化があった場合は、ご家族へ連絡し相談している。(富草診療所は往診、訪問看護も依頼している。)	本人・家族等が希望するかかりつけ医になっており、月1回の訪問診療もあり、受診時の家族等対応も事業所の看護師が同行して、状況を記録に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや看護ノートでの共有、また緊急時にはNsへの連絡を基本としている。定期的な訪問看護あり。診療所と阿南病院、専門の皮膚科歯科と連携交流を行っている。施設内に看護師資格所有者3名在籍。主となっている看護師は24時間オンコール体制を取っており、夜間、休日対応している場面もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の受診をしている。利用者様の状態に変化があれば主治医、家族に連絡情報提供や連携を行っている。病院、家族側からICの知らせなく退院の話が進んでいたケースがあった。良い関係が築けるよう努力していきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	以前は家族会にて意向の聞き取りを行っていた。現在家族会開催が難しく、前年に終末期意向書を郵送し、ご家族に作成して頂いた。状態を常にかかりつけ医と相談し対応と確認をしている。	事業所としては看取りも行う方針を示しており、状況の変化に応じて家族等と話し合いをしています。かかりつけ医、職員とは常に連携をとり、安心して終末期を迎えられるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修、訓練は行っておらず、看護師の指示を受けて行動する場面が多い。今後研修機会の確保が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練実施予定。地域との協力体制には検討が必要。以前は地区の防災訓練に参加していたが、現在は施設独自の訓練となっている。夜間訓練も行っていない。	消火器等を使った火災訓練を、利用者と共に実施しました。地域や運営推進会議のメンバーとの協力は今後の検討となっています。事業継続計画を社協全体で作成する準備を行っています。	事業所の特性を把握し、地域住民や運営推進会議の協力体制を築き、日頃から準備や訓練を行い、実施後の課題等を明確にして次に活かす事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	生活歴やその人らしさを大切に言葉かけを心掛けている。プライバシーを損ねない言葉でケア対応をしている。トイレ誘導、口腔ケアなどプライバシーに配慮した声掛け、援助を行っている。	まず、その人らしさを大切に考え、トイレ誘導や口腔ケア等の言葉かけや対応に配慮出来るよう心掛けに努めています。更に職員全体で人権意識を徹底できる取り組みを計画しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のあらゆる場面で気持ちや思いを聞き取れるような声掛けを行っている。本人の意向を聞きつつ自己決定を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間に追われる時もあるが、希望やペースを大切に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人ひとりの身だしなみに気を付け、着やすく、季節に合った服を着られるように支援している。男性の利用者様は髭剃りをする。個々の好みの衣類を持参している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備は職員が行い、台や食器を拭いたり、片付けなどお手伝いをお願いする場面もある。職員が手作りの料理を作り、盛り付けなど彩りよく工夫している。	近所からのお裾分けの野菜や果物など頂いたものを食卓に出し、誕生日メニューや郷土食を利用者と共に作り、同じテーブルを囲んで楽しい食事となっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分が取れるよう、ココアやヤクルトなども提供している。食事量は食べる量等により個々で分けている。一人ひとりの健康チェック、食事や水分量など記入して申し送りしている。外部業者の食材配達を利用し、栄養士監修の食事を提供している。又、昼食は社協の配食弁当となっている。水分確保に関しては個々の好みの飲水提供など工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア用のウェットティッシュ等本人の状態に適した口腔ケアが出来よう支援している。出来ない利用者様は介助する。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	声掛けでトイレに一緒に行ったりオムツ交換している。ケース記録の電子化により、排泄パターンの把握が容易になったように感じる。自身の機能を活かした支援をしていきたい。	自立されている利用者がトイレに行かれる時は、遠くで見守っています。職員は排泄パターンを把握し、本人のリズムに沿って、行きたい時にトイレに行くことができる支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録に毎日排泄チェックしている。排便を促すよう栄養士監修の食事、水分確保、適度な運動が出来るよう努力している。オムツ使用の排便困難な入所者は、トイレに座って排便できるような工夫もしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は週2回、曜日固定となっている。職員不足にて入浴は職員1人対応となったが、入所者と1対1になった為、入所者本人のペースでゆっくりと入浴できている様に感じる。入浴を拒否される事なく楽しく入浴されている。	入浴時は、利用者のペースに合わせて、話をしながら、又、季節を感じながらのゆず湯や入浴剤を活用し、ゆっくりと入浴を楽しんでいます。体調が悪い利用者には、清拭をするなど支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各々のペースで生活できるよう気を付け、安心して休めるように室内の環境を整えている。眠れない利用者様はお話したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が窓口となり、医療機関と連携しながら、状態に合わせて下剤、眠前薬を調整している。個人ケースファイルにお薬情報あり、職員なら誰でも閲覧出来るようになっている。内服の変更等看護ノートや申し送りなどで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たみ、おしぼりたみ、散歩などやレクリエーションにより楽しみが出来るよう活動している。巡回図書館車の紙芝居、DVD等を見て体操をしたり、行事がある時は楽しんで頂いている。役割をこなせる入所者は少なくなってきたが、軽作業など出来ることを行えるよう支援している。個人用のおかし等希望時に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍、職員不足の為外出の機会がほぼない。コロナ禍を言い訳にせず、外出の機会が設けられるよう努力していきたい。なかなか遠出は出来ないが、天気の良い日はテラスに出たりしている。	秋の紅葉がりや事業所の周りを散歩して草花を眺めたり、しゃぼん玉を飛ばして楽しんでいます。車いす使用の利用者は、ベランダでお茶を楽しむなど利用者に合わせて支援を行っています。地域の見どころのひまわり畑や桜、菊などを見る外出も計画しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持の希望は無いが、支払いを気にされる利用者の方が多くおり、声掛けで対応している。日用品などの購入は家族にお願いしている。遠方の家族に関しては金銭を預かり、ケアマネが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話に出たり、LINEテレビ電話などで交流をしている。正月には年賀状を出したり、家族から手紙が来たときは、返事を書いて送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人らしい居室や、ホールに花を飾ったりと居心地よく過ごせる様に配慮している。外を眺めたり、外に出て季節を感じて頂いたりしている。施設内の清潔を保てるよう努力し、温度や湿度の管理に気を付けている。	ホールには、季節の花を飾ったり、利用者同士でソファに座ってゆったりできる場所もあります。また、台所からは、料理する音や食材の匂い等が感じられ、生活感のある空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの席や少し離れた席に座るなど思い思いに過ごせる場がある。利用者様同士お話ししたり、ソファに座ったり利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の好きな物を置いたり、座椅子など落ち着いて過ごせるようにしている。布団やタンスなどは持ち込みの為、各々の馴染みのあるプライベートな空間となるよう配慮している。	居室の窓は、掃き出しの窓となっていて解放感を感じられます。馴染みのカレンダーやテレビ、座椅子等思い思いの物が置かれ、その人らしく暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置など、できることを自分で出来るよう環境を作っている。利用者様と一緒に洗濯物を畳んだりしている。個々の状態に合わせて自由に生活できるよう、危険の無い安全な環境を作れるよう努力している。		